

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 30 日現在

機関番号：72681

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520097

研究課題名(和文) 天道念仏、天道神社のフィールド調査を中心とする「天道」概念の総合的研究

研究課題名(英文) Synthetic Study on idea of Tendo by fieldwork about Tendo-Nenbutu and Tendo-Jinja

## 研究代表者

加藤 みち子 (KATO, Michiko)

公益財団法人中村元東方研究所・その他部局等・研究員

研究者番号：10306524

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、天道念仏、天道神社、そして天道信仰を一貫した視座でとらえて、その背後にある「天道」概念の思想史的な位置づけについて検討した。天道神社と天道念仏の関するフィールドワークによって、両者の分布地域がほとんど重ならないこと、および、いずれも修験道の分布と密接なかわりがあることが見出された。また天道念仏は単なる太陽信仰ではなく、修験道・道教・陰陽道・仏教の複雑な習合信仰であることが明らかになった。そして、天道神社および天道信仰のルーツはいずれも大陸との関連を示す表徴があることがわかった。

研究成果の概要(英文)：This research caught Tendo-nenbutu, Tendo-jinja and belief to Tendo by a consistent viewpoint. Additionally, this research considered the idea of Tendo in the sense of the history of philosophical thought. I found out that the distribution of Tendo-nenbutu and Tendo-jinja had not relations with each other, but concerning close to Shugendo (Mountaineering asceticism) as a result of fieldwork investigation. It became clear that Tendo-nenbutu is complicated belief in Shugendo, Taoism, Onmyōdō, Shintoism, Buddhism. not just sun belief. I discovered that the belief of Tendo was introduced from a continent.

研究分野：日本思想史

キーワード：天道 天道神社 天道念仏 修験道 神仏習合

### 1. 研究開始当初の背景

本研究は、平成 22 年度より開始した科学研究費補助金、基盤研究(C)「社会調査法における御籤・神籤に関する思想史的研究を中心とした総合的研究」で、江戸時代の御籤にみられる民衆の信仰対象が、あらゆる神仏以上に「天道」にむけられていたという発見が出発点にある。また、その調査のプロセスで天道神社とよばれる神社が日本各地に存在することを発見したということが重要なきっかけになっている。申請者は、かねてから、近世、近代の文学作品や僧侶による仏教の民衆布教のための勸化本の研究を進めているが、それらの文献には、神や仏とならんで「天道」という観念がよく出てくる。また、神仏習合的な民間行事として、天道念仏というものが、北関東を中心として現在でも多数残っているが、そこに、なぜ「天道」という概念が付与されているのかについては、明確な根拠が示されていないことが多い。日本人の宗教思想は神仏習合であるというのが一般的見解であるが、実際に民衆の信仰の実態を調査してみると、神仏習合では説明しきれない、つまり、神とも仏ともつかない多様な宗教観念が存在していたことがわかる。そうした概念の中で、最も重要なもののひとつが「天道」であると考えられるのである。そこで、天道念仏と天道神社を中心とするフィールド調査によって、神道でも仏教でも神仏習合でもないわれわれ日本人のいわばマジョリティーの宗教思想の実態を見つめなおそうというのが、本研究の試みである。

### 2. 研究の目的

本研究の最も大きな目的は、日本全国の天道念仏と天道神社についてフィールド調査を行うことで、日本人に広く信仰されてきた「天道」(お天道様、お日様)概念の思想史的意味を、新たな史料に基づいて照射することである。フィールド調査によって新たな資料を掘り起こすことも、本研究の重要な目的である。天道念仏と天道神社をひとつの視点で研究対象にすることで、日本人の宗教的思惟を検討する際、常に問題となる神仏習合の実態を具体的に明らかにするとともに、神道、仏教の枠を超えて江戸時代から現代に至るまで広く日本人に信仰されてきた「天道」という概念の意味を明らかにする。

### 3. 研究の方法

本研究は(1)~(5)の調査を平行して行い、研究目的である、近世から近代の日本人のマジョリティーの宗教的思惟のひとつであった「天道」概念の内容を総合的に明らかにしていくことである。

(1) 天道念仏の調査：まず、北関東を中心に現存する天道念仏について、実地調査を行う。福島県(白川、上羽田など)、千葉県(印西、船橋、習志野、柏、四街道など)、茨城県(新治など)、群馬県(高崎、桐生など)

埼玉県(秩父など)、東京都(立川など)など、できうる限り多くの事例を実地調査し、天道念仏の目的、背景、場所、次第、「天道」の意味、参加者、関連する伝承、同時に行う儀礼などを比較検討する材料とする。調査に当たっては、史料の収集、写真、ビデオの撮影、聞き取り調査などを盛り込む。また調査に際しては、「福島県の祭り関連と上羽田の天道念仏踊」(『福島の進路』334、2010年)の報告者である懸田弘訓氏、「村落の行事の改廃--八千代市桑納の春祈禱と天道念仏」(『西郊民俗』188、2004年)の執筆者である大島建彦氏、「天道念仏のなかのくらし--群馬県前橋市東上野町より」(『日本民俗学』234、2003年)の報告者高橋健一氏ら、地元の研究者と連絡を取りあい、古来の伝承の聞き取り調査などの協力を乞う。

また、天道念仏には「天道念仏踊り」を行う地域もあることから、各地に伝承される「天道」の名を冠さない「念仏踊」「念仏講」との比較によって、「天道」の名を冠する念仏講の特色、全国的分布の傾向の意味、媒介した念仏聖の傾向などの文献調査、実地調査も時間の許す限り加える。予備調査によれば出羽三山系、白山系の修験者との関連が推定されるので、出羽、白山系修験の聖を中心に調査を進める。

(2) 天道神社の調査：日本に現存する(あるいはかつて存在した)天道神社について、所在、祭神、成立の経緯等について逐一リストアップして、現地調査を行う。予備調査済みの京都、名古屋、長崎、福岡、千葉などに現存する「天道神社」を中心に、それぞれの史料、伝承、由緒、祭神、祭礼、祭礼への参加者、本社のある等、できうる限りの情報を入手し、「天道神社」の共通点や系譜、思想背景、伝播者などについて、比較検討する材料を集める。調査に当たっては、史料の収集、写真、ビデオの撮影、聞き取り調査などを盛り込む。神職の方との連絡に当たっては、東京都板橋区の日祖神社神職であり、『女性神職の近代』(ペリかん社、2009年)の著者で思想史研究者でもある小平美香氏の協力を仰ぎ、宮司や神社本庁への紹介を願うことで、スムーズな調査ができるよう手配を行う。

また並行して文献調査もすすめ、天道神社がどのような人々に注目され、どのように扱われてきたかも検討を加える。天道念仏の分布との相関関係の調査、「天道」の名を冠する神社の媒介者の調査なども合わせて行う。まつられている祭神の傾向、天道神社の由緒などから、設立の折りに関与した重要勢力が何であったのか、その勢力と天道念仏の媒介者に何らかの関連があるか、中央の神祇信仰とどのように関連するかなどに注意して史料調査を行う。

(3) 対馬および北九州の天道(天童)信仰と修験道、密教、神祇信仰の関連についての調査：対馬については、永留久恵「対馬の天道地」(『日本民俗学』147号、1983年)ほか、

民俗学の領域の学者による先行調査研究も多くあるのでその成果も踏まえつつ、申請者の視点で、修験道との関連、神道との関連、仏教、特に真言密教との関連に注意して現地調査を行う。ご神体である龍良山、天道法師塔、天神多久頭魂神社等を中心に、史料の収集、写真、ビデオの撮影、聞き取り調査等を行う。特に、事前に収集した他の天道関係、修験道関係の情報と照らし合わせ、「天道」という概念との関連のあるものを中心にデータの検討、収集を行う。

(4) 韓国の天道大明神、天道教と日本の「天道」の関係についての調査：韓国の「天道」観念との関連や相違について、「天道大明神」と、東学に由来をもつ新宗教「天道教」との関連を中心に現地調査を行う。天道大明神については、天道明神、天道法師といった概念、菩薩像、物語が存在するのかどうか、あるならばいかなる意味をもち、どのような思想的系譜にあるのか。日本に移住した氏族と「天道大明神」の信仰はどのような関係にあるのかなどについて、史料の収集、写真、ビデオの撮影、聞き取り調査等を行う。また、現存する「天道教」はいかなる思想背景によって「天道」という概念を採用したのか、を調査する。日本の「天道」との繋がりの有無を検討する。なお、天道教の調査にあたっては、「韓国の天道教の歴史とその思想」(アジア文化アジア文化総合研究所出版会 2006)の執筆者、尹錫山氏にも協力を仰ぎ、韓国での調査を進める。

(5) 修験系聖(ひじり)の活動と天道念仏、天道神社、天道概念の関連についての調査：永留久恵「天道信仰の源流」(『日本民俗学』155、1984年)、「天道信仰の本質」(『日本民俗学』150、1983年)などの先行研究を参考としつつ、(1)～(4)の調査結果に基づいて、修験系聖の活動と天道念仏、天道神社、などをめぐる「天道」概念がどのようなものかを調査する。予備調査によれば、出羽三山系、白山系の修験系聖の活動と、太陽信仰に関連が見られるので、出羽系と白山系聖の活動拠点や活動ルートと、天道念仏、天道神社の分布が関連するかどうかを調査する。また、対馬の天道法師が行基の師であり、天道法師が筑前の宝満獄に移住したとの伝承もあることから、筑前宝満獄系の聖の活動ルートと天道念仏、天道神社の分布との関連についても調査、検討する。更に出羽系修験、白山修験と筑前修験の関連の可能性についても調査を進めていく。以上の問題点について、文献資料の調査も踏まえ、修験系の聖の実際の活動が、「天道」概念の伝播、普及にどのような影響があったのか、あるいはほかの勢力の影響があったのかなどを分析し、研究成果をまとめていく。

#### 4. 研究成果

史料調査およびフィールド調査によって、「天道」概念には、道教と日本陰陽道が深く

関与していることと、その背景には大陸の思想との繋がりがあることが浮かび上がってきた。

まず、天道神社と天道念仏の残存する地域間するフィールドワークによって、両者の分布地域がほとんど重ならないこと、および、いずれも修験道の分布と密接なかわりがあることが見出された。また天道念仏は、北関東の各県に分布する念仏行事は単なる太陽信仰ではなく、修験道・道教・陰陽道・仏教の複雑な習合信仰であることが明らかになった。そして、天道神社および天道信仰のルーツはいずれも大陸との関連を示す表徴があることがわかった。

また、日本中近世の文学作品や僧侶、神職等による仏教の民衆布教のための勸化本、みくじ本等の文献には、神や仏と並んで「天道」という観念がしばしば登場する。また、我が国の民俗行事には、天道念仏、天道花といった形で「天道」という言葉がしばしば登場する。しかしなぜそれが「天道」と呼ばれるのかということは必ずしも明確では無く、漠然と神仏習合と呼ばれてきた。実際の儀礼や伝承を詳細に検討していくと、仏教や神道の教理では説明できない部分も多い。つまり実際の民衆信仰の現場は、神仏習合では説明しきれない宗教複合が存在するのである。この天道概念の思想背景が、神道や仏教、乃至神仏習合の修験道のみでは論じきれない諸思想と関連を持ち、特に道教、陰陽思想などを媒介として、中世・近世における大陸との密接な交流を背景として成立している点を見出したことが主要な成果であった。

したがって、天道信仰の今後の研究には、東アジア全体を視野にいれた習合思想の調査および研究が不可欠となる。本研究4年目に「東アジアにおける天道信仰の総合的研究 道教・陰陽道とのシンクレティズムを中心として」を申請したゆえんである。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

加藤みち子、「天道」とはいったい何であったか、日本思想史学、査読無、44号、2012、56-62

加藤みち子、「熊野観心十界曼荼羅」を読み直す 熊野修験の視点から、國華、査読有、1408号、2013、5-15

加藤みち子、『東福仏通禪師十牛訣』における第七図の解釈、印度學佛教學研究、査読有、62巻2号、2014、180-184

加藤みち子、思想史としてのおみくじ、日本思想史学、査読無、46号、2014、37-45

〔学会発表〕(計4件)

加藤みち子、江戸期日本における天道信仰の倫理思想史的考察 御籤本・教訓書を中心

として、日本倫理学会第 65 回学術大会、  
2014 年 10 月 5 日、一橋大学（東京）

加藤みち子、天道信仰の思想史的検討 天  
道神社を起点として、日本思想史学会  
2014 年度大会、2014 年 10 月 25 日、愛知学  
院大学（名古屋）

加藤みち子、パネスセッション「思想史と  
してのおみくじ」コメンテーター、日本思想  
史学会 2013 年度大会、2013 年 10 月 20 日、  
東北大学（仙台）

加藤みち子、『東福仏通禅師十牛訣』にお  
ける第七図の解釈、日本印度学佛教学会第 64  
回学術大会、2013 年 9 月 1 日、島根県民会  
館（島根県）

〔図書〕（計 4 件）

加藤みち子、鈴木正三著作集上、中央公論  
新社、2015、200

加藤みち子、鈴木正三著作集下、中央公論  
新社、2015、300

加藤みち子、佐野みどり、加須屋誠、藤原  
重雄編、『中世絵画のマトリックス』、青簡  
舎、2014、295-321

加藤みち子、絵から読み解く日本仏教 日  
本仏教概論、2012、山喜房佛書林、214

〔産業財産権〕

出願状況（計 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

加藤 みち子 (KATO, Michiko)

公益財団法人中村元東方研究所・専任研究員

研究者番号：10306524

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：

(4) 研究協力者

( )